

2007年2月7日



2007年3月期第3四半期財務・業績の概況

東レ株式会社
代表取締役社長 榊原定征

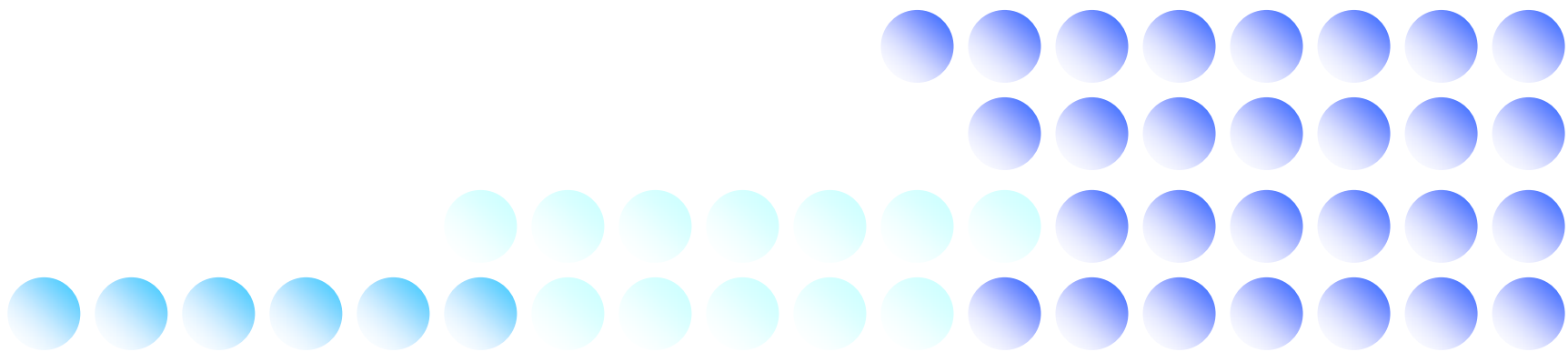
・2007年3月期第3四半期連結業績の概要

- ・連結業績の概要 (P4 - 5)
- ・事業セグメント別業績の概要 (P6 - 7)
- ・事業セグメント別業績 (P8 - 14)
- ・営業利益増減要因分析 (P15)

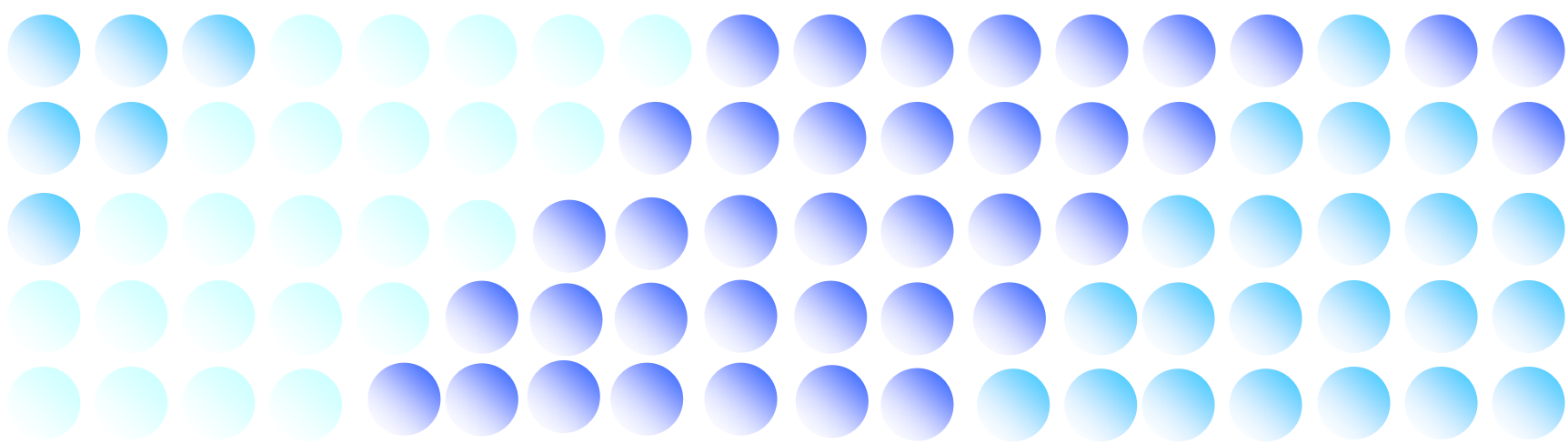
・2007年3月期通期業績見通し

- ・連結業績見通し (P17)
- ・事業セグメント別業績見通し (P18)
- ・事業セグメント別3Q vs 4Q営業利益比較 (P19)
- ・原料価格の見通し (P20)

・最近のトピックス (P21-29)



2007年3月期第3四半期連結業績の概要



連結業績の概要(第3四半期まで累計)

億円

	06年3月期 (4-12月累計)	07年3月期 (4-12月累計)	増減
売上高	10,265	11,296	+1,031 (+10.0%)
売上原価	8,130	9,007	+877 (+10.8%)
売上総利益	2,135	2,289	+154 (+7.2%)
(売上高総利益率)	20.8%	20.3%	-0.5 ポイント
販売費及び 一般管理費	1,557	1,648	+91 (+5.9%)
(売上高販管費比率)	15.2%	14.6%	-0.6 ポイント
営業利益	578	641	+63 (+10.8%)
(売上高営業利益率)	5.6%	5.7%	+0.0 ポイント
営業外収支	37	26	+11
経常利益	542	615	+74 (+13.6%)
特別損益	48	110	-62
税前利益	493	505	+12 (+2.5%)
純利益	280	406	+126 (+45.1%)

(注) 3月期決算会社は4～12月の業績、12月期決算会社は1～9月の業績を連結

連結業績の概要 (第3四半期(10月~12月))

億円

	06年3月期 第3四半期	07年3月期 第3四半期	増減
売上高	3,477	3,834	+357 (+10.3%)
売上原価	2,763	3,066	+304 (+11.0%)
売上総利益	715	768	+53 (+7.4%)
(売上高総利益率)	20.6%	20.0%	-0.5 ポイント
販売費及管理費	525	556	+31 (+5.9%)
(売上高販管費比率)	15.1%	14.5%	-0.6 ポイント
営業利益	190	212	+22 (+11.6%)
(売上高営業利益率)	5.5%	5.5%	+0.1 ポイント
営業外収支	17	2	+15
経常利益	173	210	+37 (+21.2%)
特別損益	11	1	-10
税前利益	185	211	+27 (+14.4%)
純利益	112	126	+13 (+11.9%)

億円

	06年9月末	06年12月末	増減	06年3月末 <ご参考>
総資産	15,618	16,142	+524	15,374
負債合計	9,571	9,902	+331	9,467
少数株主持分	-	-	-	537
資本合計	-	-	-	5,370
純資産合計	6,047	6,240	+192	-
有利子負債残高	5,074	5,292	+217	4,844
D/Eレシオ	0.92	0.94	+0.01	

(注) 3月期決算会社は10~12月の業績、12月期決算会社は7~9月の業績を連結

事業セグメント別業績の概要 (第3四半期まで累計)

Innovation by Chemistry

億円

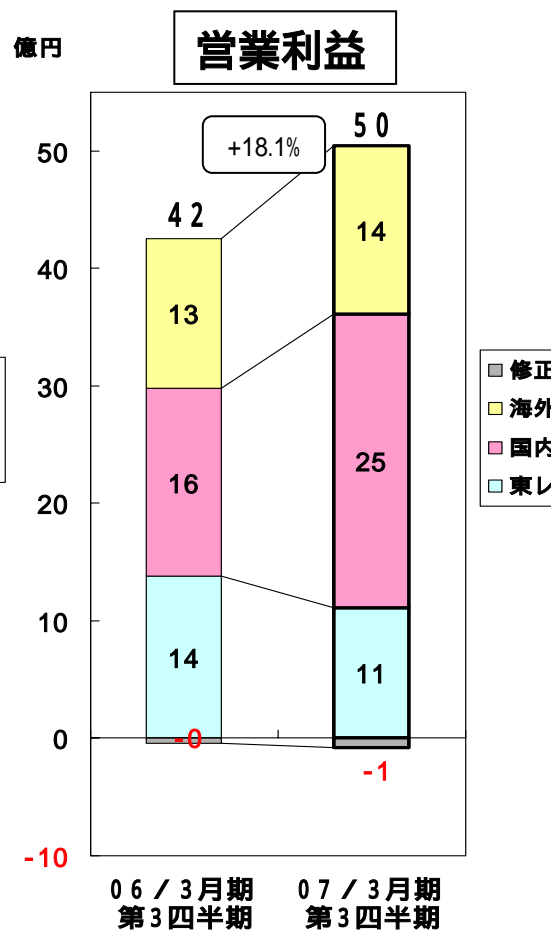
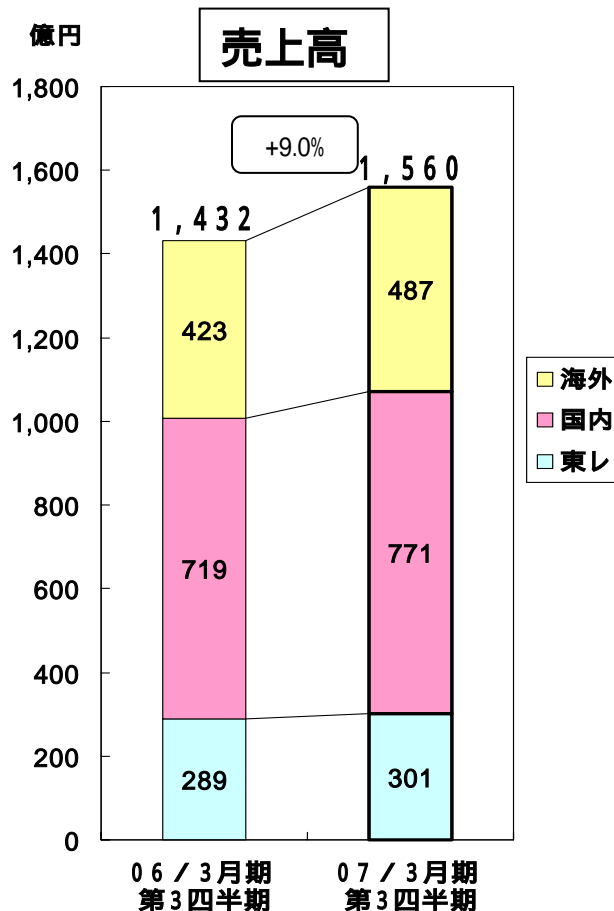
	売上高			営業利益		
	06年3月期 (4-12月累計)	07年3月期 (4-12月累計)	増減	06年3月期 (4-12月累計)	07年3月期 (4-12月累計)	増減
繊維	4,319	4,578	+259 (+6.0%)	146	144	-1 (-0.9%)
プラスチック・ケミカル	2,486	2,798	+312 (+12.6%)	133	126	-6 (-4.7%)
情報通信材料・機器	1,692	1,972	+279 (+16.5%)	198	218	+20 (+10.2%)
炭素繊維複合材料	380	503	+122 (+32.2%)	87	130	+43 (+49.4%)
環境・エンジニアリング	902	968	+66 (+7.4%)	8	4	+12 (-)
ライセンスその他	485	477	-9 (-1.8%)	26	29	+3 (+11.3%)
(内医薬・医療)	305	304	-2 (-0.5%)	9	8	-2 (-17.4%)
計	10,265	11,296	+1,031 (+10.0%)	582	652	+70 (+12.1%)
消去又は全社				3	11	-8
連結	10,265	11,296	+1,031 (+10.0%)	578	641	+63 (+10.8%)

事業セグメント別業績の概要 (第3四半期(10月～12月))

億円

	売上高			営業利益		
	06年3月期 第3四半期	07年3月期 第3四半期	増減	06年3月期 第3四半期	07年3月期 第3四半期	増減
繊維	1,432	1,560	+128 (+9.0%)	42	50	+8 (+18.1%)
プラスチック・ケミカル	898	952	+54 (+6.1%)	46	40	-7 (-14.3%)
情報通信材料・機器	581	694	+113 (+19.4%)	67	73	+6 (+8.8%)
炭素繊維複合材料	136	184	+48 (+35.0%)	28	42	+14 (+48.5%)
環境・エンジニアリング	283	290	+7 (+2.6%)	4	3	-1 (-28.1%)
ライセンスその他	148	154	+6 (+4.0%)	6	9	+3 (+58.5%)
(内医薬・医療材)	102	104	+2 (+1.7%)	3	2	-1 (-44.1%)
計	3,477	3,834	+357 (+10.3%)	193	216	+23 (+11.8%)
消去又は全社				3	4	-1
連結	3,477	3,834	+357 (+10.3%)	190	212	+22 (+11.6%)

事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

原燃料価格の影響を価格転嫁と高付加価値品へのシフトでカバーし切れず、増収減益。テキスタイルは、高級服地用途、スポーツ用途向け高付加価値品輸出を拡大し、増収増益。

国内子会社

商事子会社が拡販を進め、増収増益。

海外子会社

中国子会社各社の収益改善、およびイタリア人工皮革子会社が好調に推移したことにより増収増益。

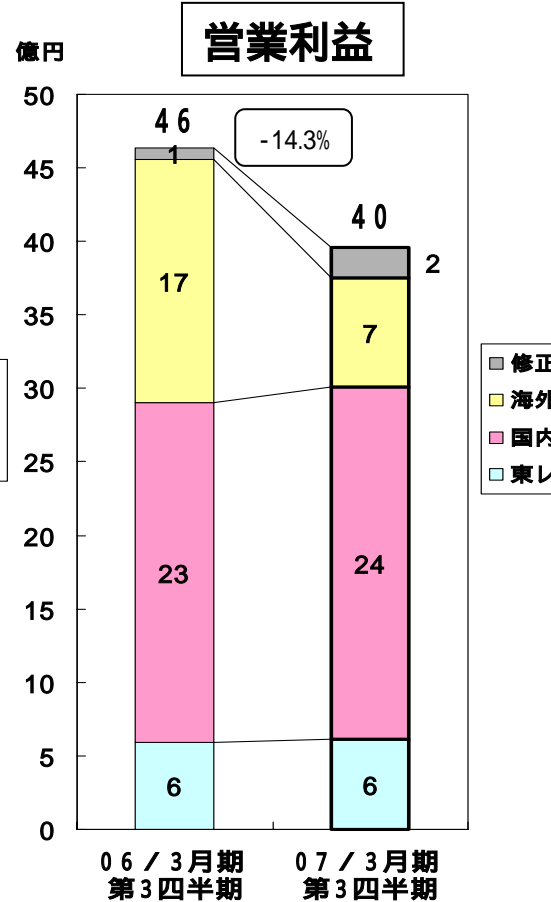
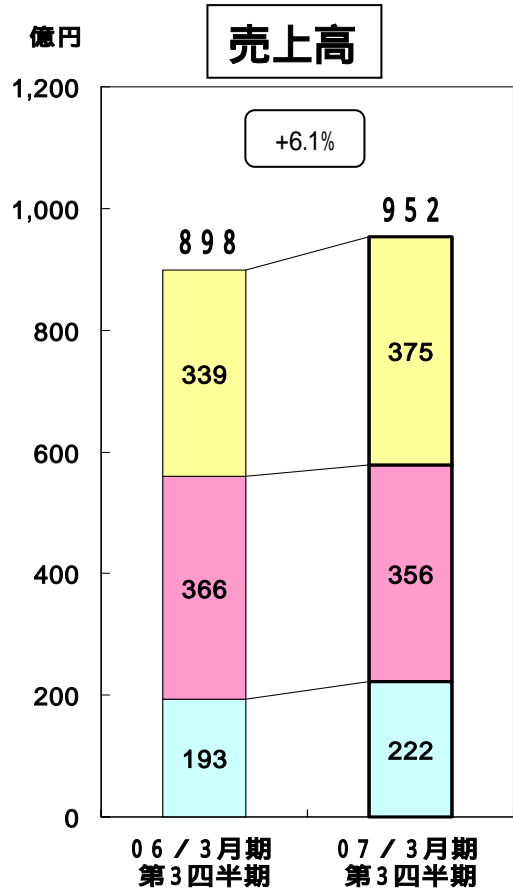
< 主要関係会社 >

国内: 東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア: PENFABRIC (マレーシア)、LUCKYTEX (タイ)、ITS (インドネシア)、TFNL (中国) 他

欧米: ALCANTARA (イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂事業では、自動車用途、家電・ゲーム機等を中心に拡販を進め、フィルム事業では、ハイブリッドカー用コンデンサー用途を中心に拡販を進めたが、原燃料価格高騰の影響を価格転嫁し切れずプラスチック全体では増収減益。ケミカル事業は増収増益となり、全体では増収増益。

国内子会社

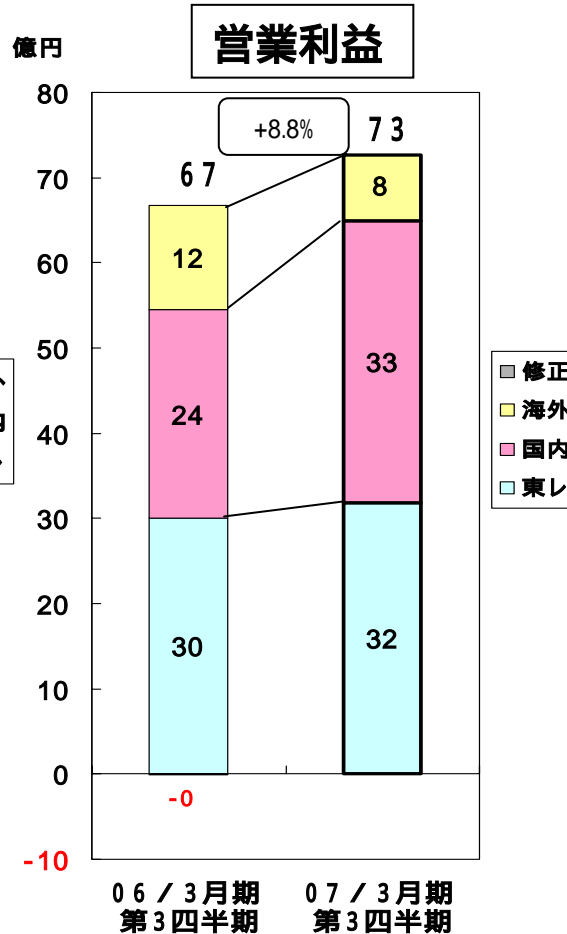
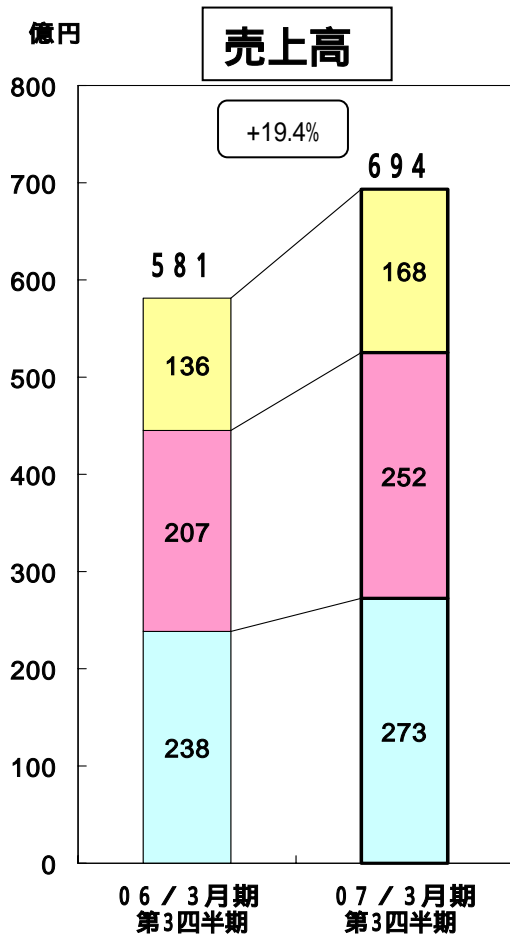
一部商事子会社の不振等により減収となるも、国内子会社全体では増益。

海外子会社

アジアの樹脂子会社、米国フィルム子会社が拡販等により、増収となるも、韓国フィルム子会社が戦略的に情報通信材料・機器セグメントにシフトするとともに、フィルム子会社各社の原燃料価格高騰の影響等もあり、全体として減益。

< 主要関係会社 >

国内：東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他
 海外：TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他



東レ

FPD市場の成長等に伴うIT関連樹脂・フィルム、PDP関連材料の拡販に加え、半導体関連材料の好調等もあり、増収増益。

国内子会社

IT関連機器子会社が液晶カラーフィルター製造装置を中心に拡販したこと等により、増収増益。

海外子会社

韓国フィルム子会社は、FPD・電子部品関連フィルムおよびフィルム加工品の拡販を進めるも回路材料がユーザーの生産調整や競争激化の影響を受ける等により、全体で増収減益。

< 主要関係会社 >

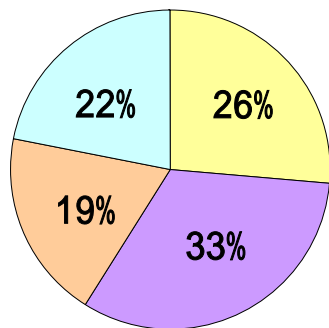
国内：東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外：TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国)、STEMCO(韓国) 他

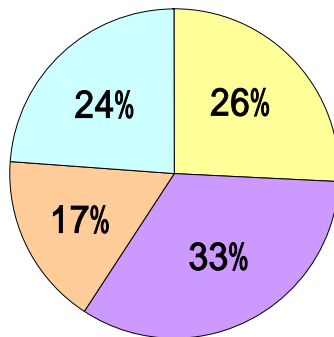
情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【07年3月期サブセグメント別売上高比率】

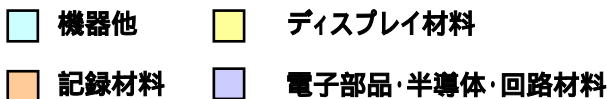
第3四半期まで累計
(第1Q～第3Q)



第3四半期(3ヶ月)



サブセグメント名



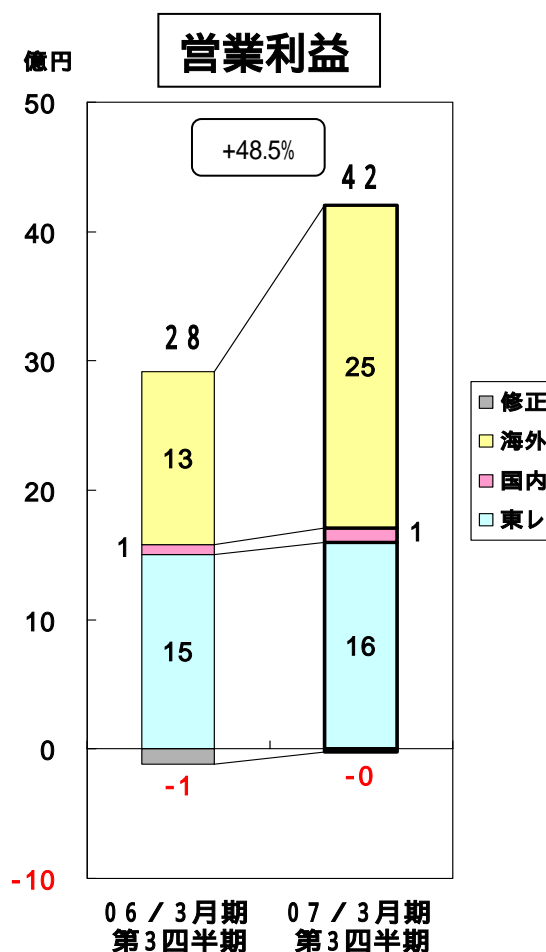
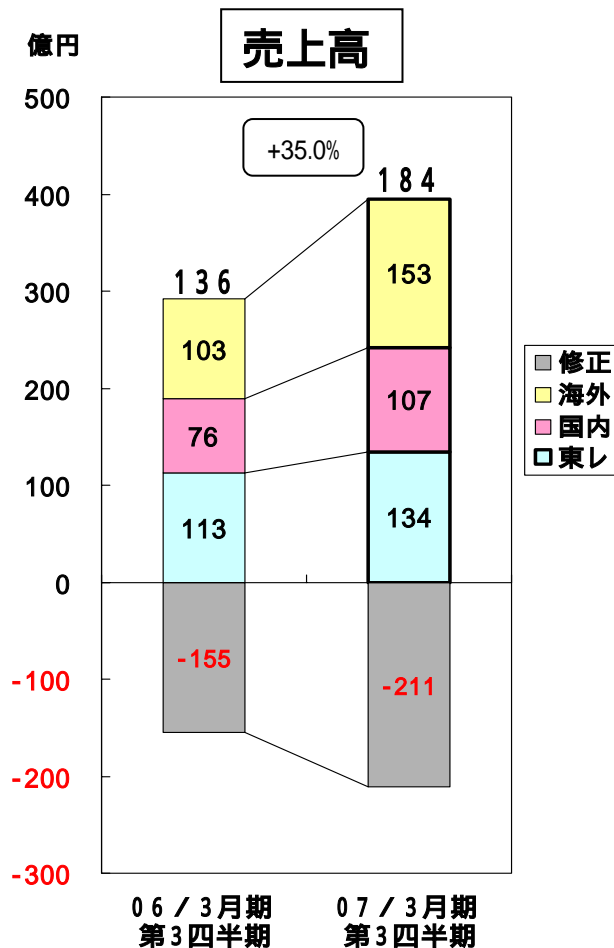
サブセグメント名	内訳
ディスプレイ材料	光学用フィルム、光学用フィルム加工品、PDPペースト、カラーフィルター、カラーフィルター用ペースト、ケミカル材料、有機EL材料他
電子部品・半導体・回路材料	電子部品・回路用フィルム、FPC用銅張ポリイミドフィルム、TAB用接着テープ、半導体・電子部品用接着シート、半導体コーティング材料、CMPパッド、2層銅張ポリイミドフィルム、TABテープ・COF加工品、樹脂材料、樹脂加工品他
記録材料	磁気材料、TTR (Thermal Transfer Ribbon)・受容紙用フィルム、印刷システム材料他
機器他	液晶スリットコーター、ダイボンディング装置、検査装置、PDP用装置・部品、商社、システム、サービス他

【サブセグメント別売上高推移】

(単位: 億円)

サブセグメント	第3四半期まで累計			第3四半期(3ヶ月)		
	06年3月期	07年3月期	増減率	06年3月期	07年3月期	増減率
ディスプレイ材料	372	521	+40%	135	180	+33%
電子部品・半導体・回路材料	529	642	+21%	195	231	+19%
記録材料	392	377	-4%	129	118	-9%
機器他	400	432	+8%	122	166	+35%
情報通信材料・機器セグメント合計	1,692	1,972	+17%	581	694	+19%

事業セグメント別業績 (炭素繊維複合材料)



特記事項

東レ

航空宇宙・スポーツ・産業各用途とも旺盛な需要に対応し、炭素繊維、中間基材、成形品それぞれの拡販を進め増収増益。

国内子会社

商事子会社が順調に拡販し、増収増益。

海外子会社

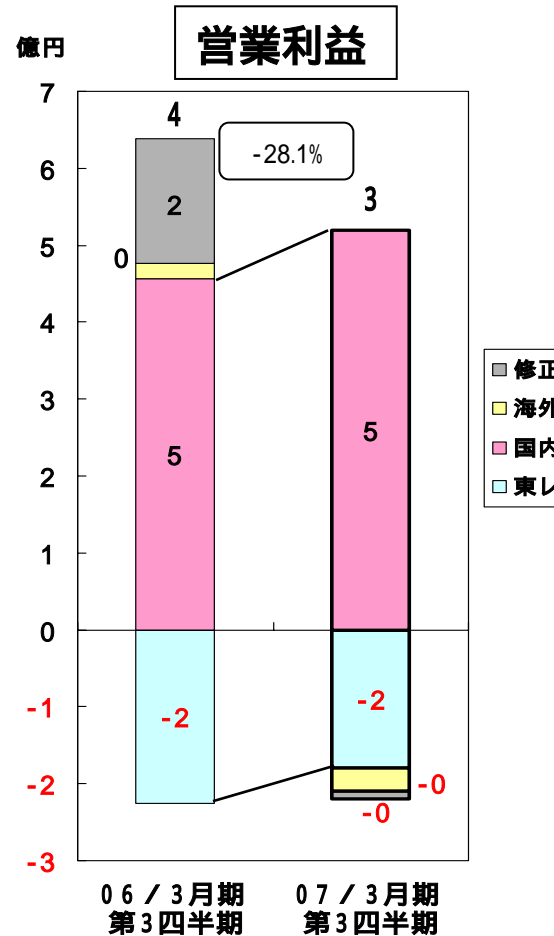
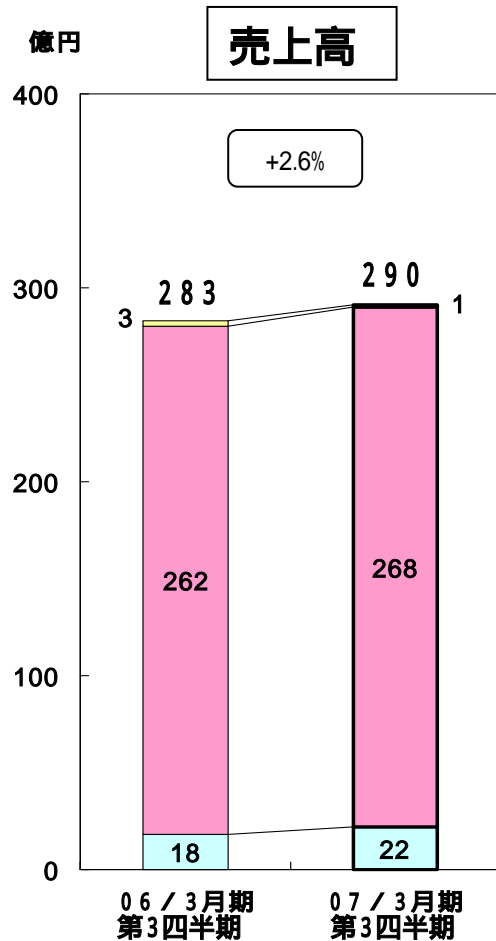
航空機用途・産業用途とも旺盛な需要に対応し拡販。
2006年1月から増設設備が稼動した米国子会社の増産・増販効果もあり増収増益。

本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

< 主要子会社 >

国内：東レインターナショナル

海外：SOFICAR(フランス)、CFA(アメリカ)、TCA(アメリカ)



特記事項

東レ

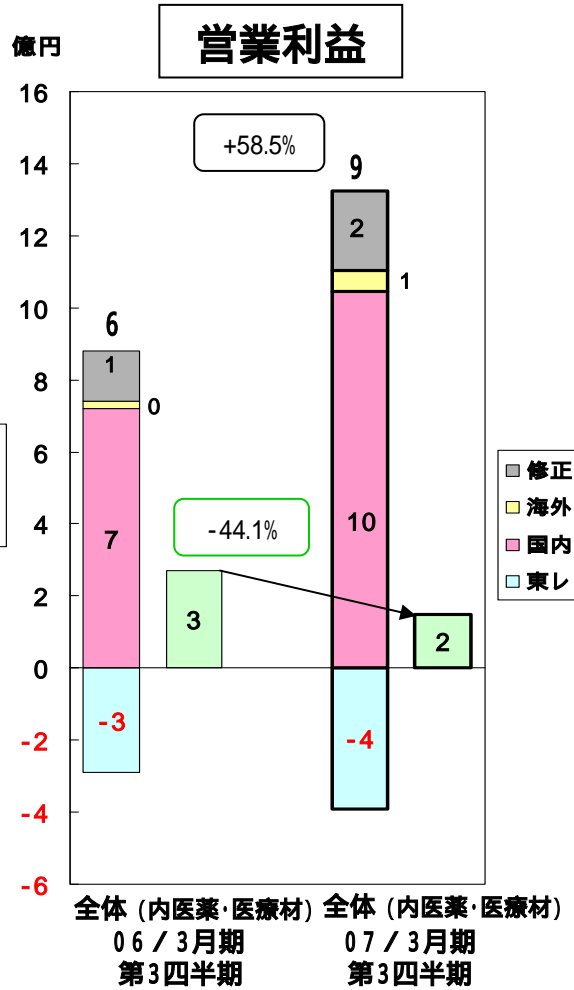
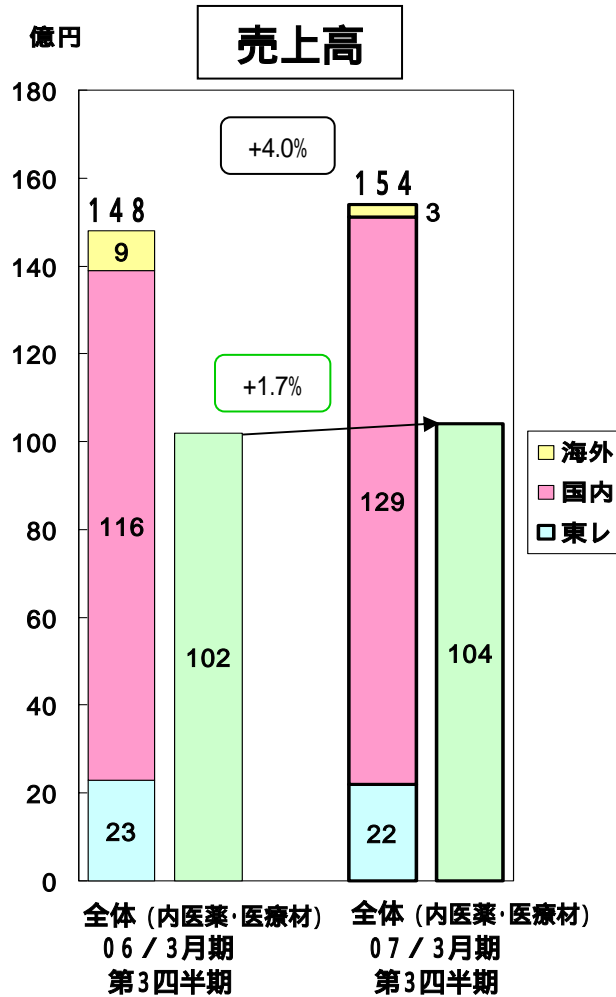
水処理事業は逆浸透膜(RO膜)の輸出が好調に推移するも、試作費用等の増加もあり、利益横ばい。

国内子会社

エンジニアリング子会社が堅調に推移し、増収利益横ばい。

< 主要子会社 >

国内: 東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他



特記事項

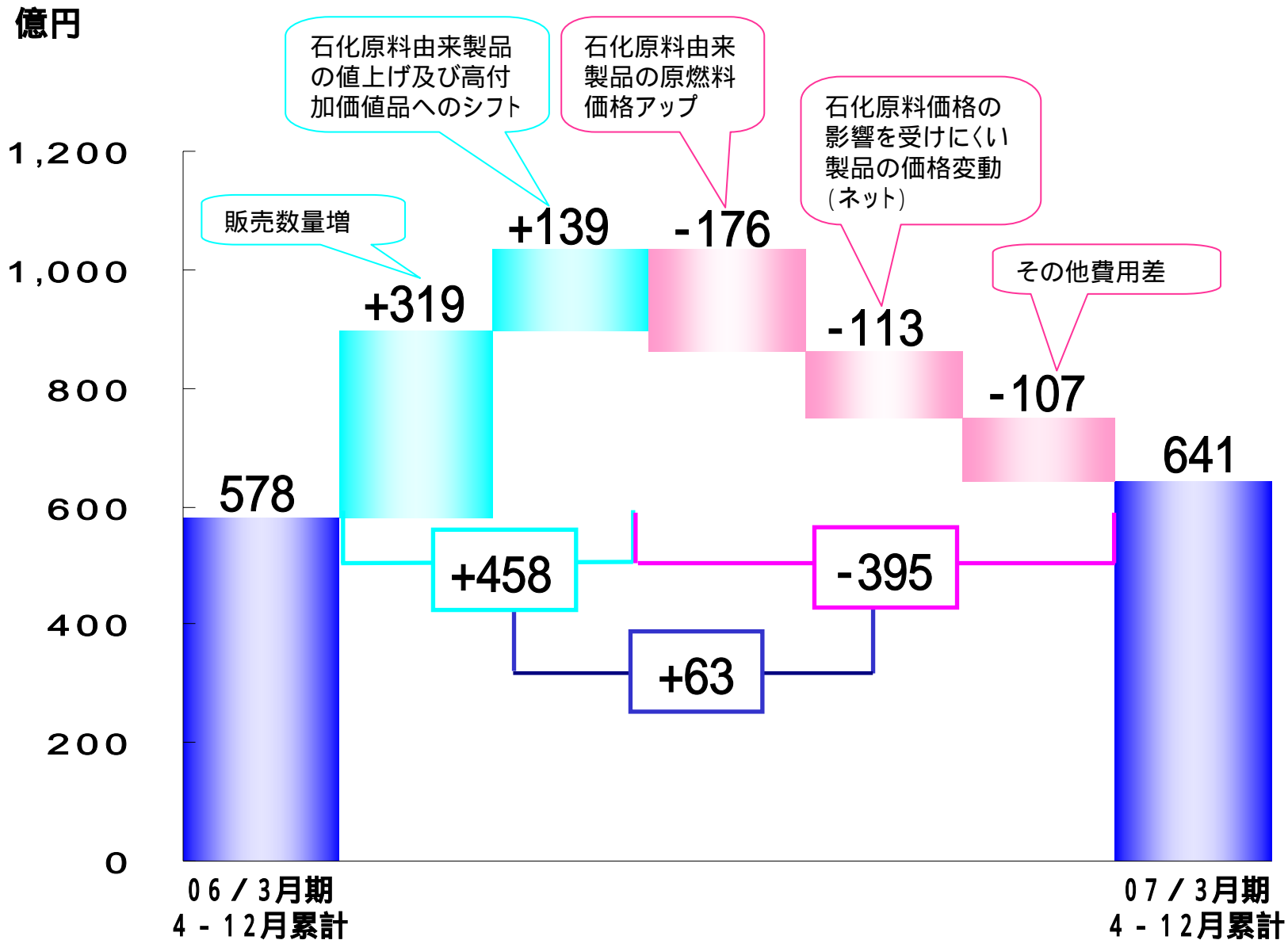
医薬・医療材
 効能追加の承認を取得した“フエロン”および人工腎臓の拡販を進めるも、薬価改定の影響等により全体では減益。

その他の事業
 国内の分析事業子会社が堅調に推移し増収増益。

< 主要関係会社 >

国内：東レ・メディカル、東レリサーチセンター、東レインタープライス 他

営業利益増減要因分析(第3四半期まで累計)





. 2007年3月期通期見通し

連結業績見通し

Innovation by Chemistry

億円

	前年度実績	今回見通し	増減	中間決算時見通し
売上高	14,275	15,400	+1,125 (+7.9%)	15,500
営業利益	930	1,020	+90 (+9.7%)	1,040
経常利益	877	990	+114 (+12.9%)	1,010
当期純利益	474	580	+106 (+22.3%)	590

【ご参考：通期営業利益見通しに対する進捗率】

億円

	06年3月期	07年3月期
第3Qまで累計営業利益	578	641
通期営業利益 06年3月期は実績 07年3月期は見通し	930	1,020
第3Qまで累計の進捗率	62.2%	62.8%

想定為替レート : (2007年 1月 ~ 2007年3月) 120円 / US \$、153円 / ユーロ
 想定原油価格 : (2007年 1月 ~ 2007年 3月) 55US \$ / B(ドバイFOB)

事業セグメント別業績見通し(売上高 / 営業利益)

億円

	売上高			営業利益			特記事項
	前年度実績	今回見通し	増減	前年度実績	今回見通し	増減	
繊維	5,805	6,000	+195 (+3.4%)	207	195	-12 (-5.7%)	価格転嫁・高付加価値品へのシフト、テキスタイルの輸出拡大を進め、増収の見込み。中国繊維子会社が大幅に収益を改善したが、原燃料価格高騰の影響をカバーし切れず減益の見込み。
プラスチック・ケミカル	3,380	3,700	+320 (+9.5%)	185	190	+5 (+2.8%)	自動車用樹脂コンパウンドを中心に拡販を進めるとともに、ハイブリットカー用コンデンサー用途、太陽電池用途など高成長分野でフィルムの拡販を進め、増収増益の見込み。
情報通信材料・機器	2,350	2,700	+350 (+14.9%)	313	340	+27 (+8.8%)	PDP関連材料、半導体関連材料、IT関連機器が好調。光学フィルム、電子部品用フィルム、並びにフィルム加工品の拡販も順調に進め、増収増益の見込み。
炭素繊維複合材料	527	700	+173 (+32.8%)	118	180	+62 (+52.3%)	航空宇宙・スポーツ・産業、全用途で需要が拡大、米国子会社の増産増販効果もあり、増収増益の見込み。
環境・エンジニアリング	1,541	1,600	+59 (+3.8%)	49	50	+1 (+1.6%)	RO膜を米国、欧州、中国で順調に拡販するとともに、マンション、エンジニアリング事業が堅調に推移し、増収増益の見込み。
ライフサイエンスその他	671	700	+29 (+4.3%)	65	75	+10 (+16.2%)	効能追加による“フエロン”の増販、医療材の販売も堅調に推移、ロイヤルティ収入の増加等もあり、増収増益の見込み。
(内医薬・医療材)	435	450	+15 (+3.4%)	32	45	+13 (+40.3%)	
計	14,275	15,400	+1,125 (+7.9%)	936	1,030	+94 (+10.0%)	
消去又は全社				6	10	-4	
連結	14,275	15,400	+1,125 (+7.9%)	930	1,020	+90 (+9.7%)	

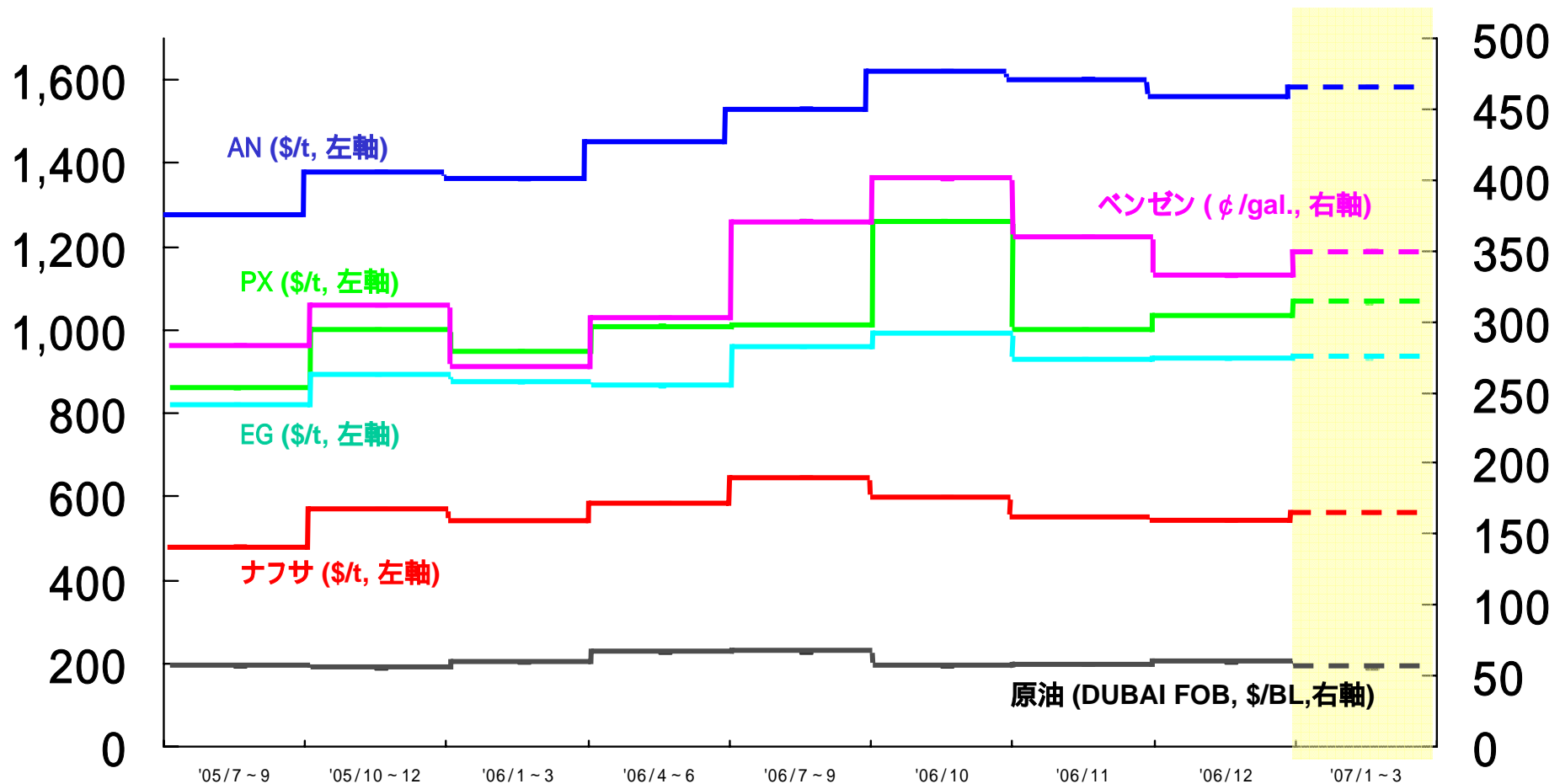
事業セグメント別3Q vs 4Q営業利益比較

億円

事業セグメント	営業利益 3Q 4Q ()内(増益額[億円]、増益率)		増益要因
	前期 (06年3月期)	当期 (07年3月期)	
繊維	42 61 (+19 +46%)	50 51 (+1 +2%)	<ul style="list-style-type: none"> 価格転嫁と高付加価値品への品種転換の推進。
プラスチック ・ケミカル	46 52 (+6 +13%)	40 64 (+24 +61%)	<ul style="list-style-type: none"> 自動車関連材料(樹脂、コンデンサー用フィルム等)の拡販。 価格転嫁と高付加価値品への品種転換の推進。 マレーシアPETフィルム新ラインの稼働による増産・増販。
情報通信材料 ・機器	67 115 (+48 +72%)	73 122 (+49 +68%)	<ul style="list-style-type: none"> 光学フィルムの増能力による増産・増販。 好調なPDP関連材料や半導体関連材料等の更なる拡販。 韓国での光学フィルム・フィルム加工品の拡販。 PDP関連ロイヤルティ収入。
炭素繊維 複合材料	28 31 (+3 +11%)	42 50 (+8 +19%)	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛工場新設備稼働による増産・増販。
環境・エンジニアリング	4 57 (+53 +1276%)	3 46 (+43 +1445%)	<ul style="list-style-type: none"> 4Qに受注物件の大規模工事の完成が集中。 RO膜・MBR(メンブレンバイオリアクター)の拡販。
ライフサイエンス その他	6 38 (+33 +548%)	9 46 (+37 +389%)	<ul style="list-style-type: none"> 既存医薬品の着実な拡販。 ロイヤルティ収入増。
消去または全社	3 3 (+1)	4 +1 (+5)	
連結	190 352 (+162 +85%)	212 379 (+167 +79%)	

原料価格の見通し

主要原料の価格は、10月まで上昇を続け、その後下落傾向であったが、1～3月はやや上昇の見通し。





・最近のトピックス

炭素繊維複合材料(CFRP)について、自動車車体(プラットフォーム)向け中間基材を開発するとともに、自動車プラットフォームに対応可能な大型RTM*成形試験設備を新たに導入、成形時間10分以下を実証するために世界で初めてとなる実物大の試作品作製に着手。

RTM* : Resin Transfer Molding 「樹脂注入成形」の略

自動車用プラットフォーム向け中間基材

プラットフォームには高い強度・剛性が必要



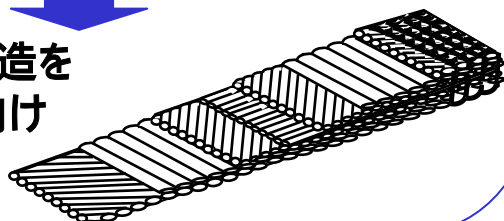
厚さ3 ~ 10 mmに重ねた積層体が必要



現行の0.2 ~ 0.4 mmの織物の裁断・積層・賦形では積層枚数が膨大のため短時間化が課題



もともと複数枚の積層構造を有するプラットフォーム向け中間基材を開発



自動車プラットフォームに対応可能な大型RTM成形設備の導入

樹脂の流れを予測するシミュレーション技術



安全性と軽量性とを兼ね備えたプラットフォームのハイサイクル一体成形実証に着手

本技術及び本設備は、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)からの受託で推進している国家プロジェクト「自動車軽量化炭素繊維強化複合材料の研究開発」の一環として導入・開発

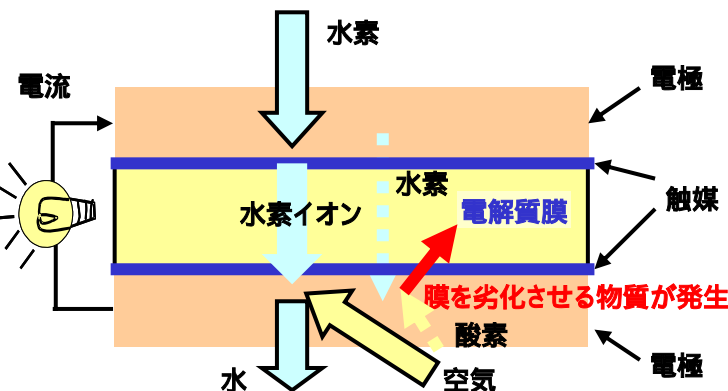
世界初、実用化レベルの耐久性を有する燃料電池用炭化水素系電解質膜の開発に成功

ナノレベルでの分子構造制御技術を駆使し、水素を燃料とする燃料電池自動車などに適した革新的な炭化水素系電解質膜の開発に成功。従来の炭化水素系電解質膜と比較して水素イオン伝導性を損なうことなく、引張り伸度が約2.5倍、引裂強度が約5倍(当社比)という「高い発電性能と高耐久性」の両立が可能となった革新的な高分子電解質膜。

燃料電池の電解質膜の比較

課題	コスト	環境汚染	化学的耐久性	強度
フッ素系	×	× (フッ素使用のため)	× 水素イオンだけでなく、水素の透過性も高いため、水素と酸素が反応することにより膜を劣化させる物質が多く発生	
炭化水素系 (従来品)				× 特に自動車用の場合、燃料電池が発電/停止を繰り返すことにより、電解質膜の膨潤/収縮を繰り返し、破れやすくなる

燃料電池の構造



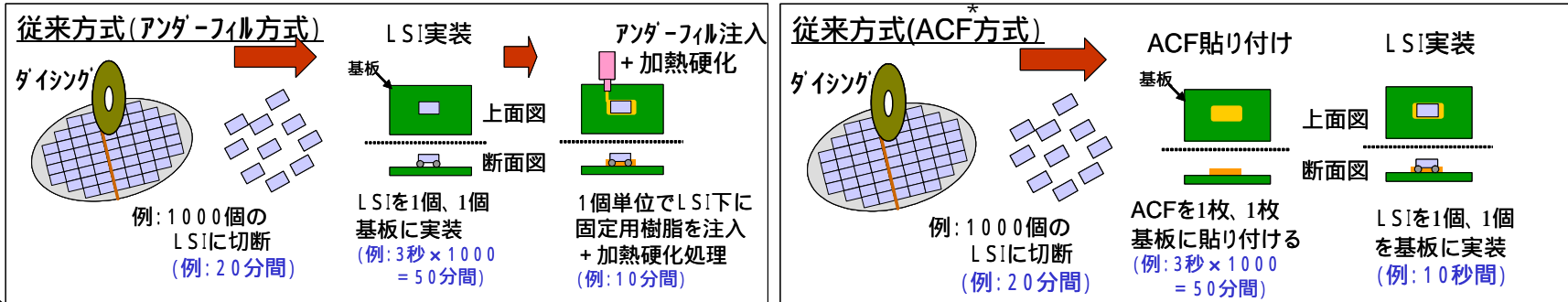
東レは、ナノレベルでポリマー構造を制御することにより、水素イオン伝導性を損なうことなく、従来の炭化水素系電解質よりもさらに水素透過率が低く(フッ素系の約1/10)、かつ物理的強度の強い電解質膜を開発。

水素を燃料とする燃料電池自動車等の高性能化、高寿命化

メタノールを燃料とする燃料電池を使用する
モバイル電子機器等の小型化、長時間使用 に大きく貢献

ナノ構造制御技術を駆使し、高機能・高性能な半導体実装用接着シートを開発

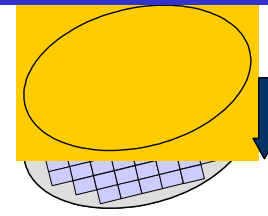
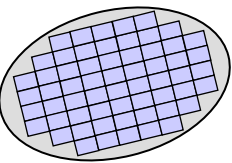
独自のナノ構造制御技術を駆使して、シリコンウェハー上にラミネートした後、未硬化のままウェハーと一括でダイシングが可能なエポキシ系半導体実装用接着剤を開発し、これを用いたフリップチップ接続用WL - NCF (Wafer Level Non-conductive Film) の技術確立に成功。本技術により、LSI実装面積の極小化と工程簡略化が実現でき、薄型ディスプレイの小型化や生産性向上などへの対応が期待される。今後、半導体メーカーとの共同開発を進めることで1~2年後には世界初の実用化を目指す。



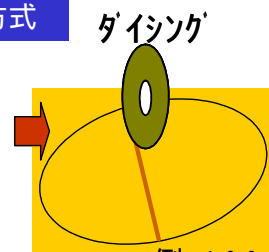
* ACF (Anisotropic Conductive Film) : 絶縁性接着剤に導電性粒子を分散させたものをテープ状に加工したものを

LSI加工済み半導体ウェハ

ウェハレベルNCF (Non Conductive Film) 方式

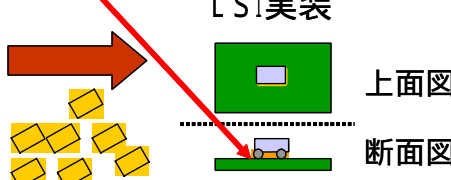


NCF (接着剤フィルム) をラミネート (例: 10秒)



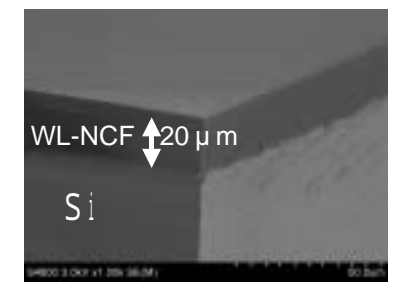
例: 1000個のLSIに切断 (例: 20分間)

はみ出し無し



LSI実装と接着を1工程で完了 (10秒間)

ダイシング後の切断面のSEM像



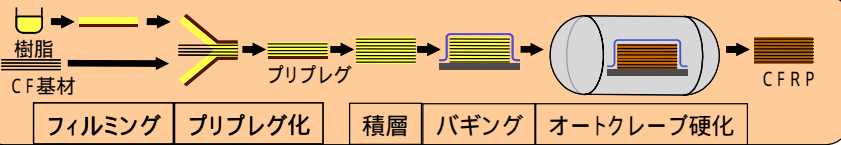
ウェハレベル方式により、ダイシング以降の実装工程を1/3にできる可能性

可視光で硬化する炭素繊維複合材料用の新規樹脂を開発

可視光で硬化する炭素繊維複合材料(CFRP)用の新規感光性マトリックス樹脂の開発に成功。本樹脂を用いることで、将来的には航空機の二次構造材 や補修・補強用パーツなど、薄型設計のCFRPを安全かつ簡便に成形できることから、次世代のCFRP製造技術を実現する革新材料として期待される。

CFRPの一般的な成形方法

プリプレグ/オートクレーブ



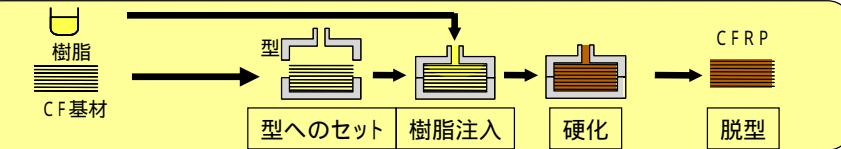
航空機



成形品として硬化するまでに長時間(約2時間)を要する

反応時間の短縮を実現できるエネルギー線による硬化反応を検討

レジントランスファーモールドディング(RTM)



車(フード)



電子ビームや紫外線等のエネルギー線のうち、安全で、特殊な光源を必要としない「可視光」を利用

可視光のデメリット

- (1) 電子ビームや紫外線に比べてエネルギー量が小さく、硬化反応に限界
- (2) 熱硬化性樹脂に対して炭素繊維との密着性が劣る

当社独自技術による課題解決

- (1) 樹脂硬化反応制御技術により、可視光でも高い反応性を実現
- (2) マトリックス樹脂設計技術により、高い密着性を実現

従来不可能とされてきた、CFRPの成形に可視光を適用することに成功
航空機用途をはじめ、土木・建築用途や自動車部材用途等への展開が期待できる

東レとパタゴニア社によるナイロン6の材料リサイクルの取り組みについて

Patagonia, Inc. (本社: 米国カリフォルニア州ヴェンチュラ) 殿と当社は、ナイロン6の材料リサイクルによる衣料品を展開。2007年秋冬物からワークパンツ(パタゴニア商品名: メンズ・ワークエンダー・パンツ)、2008年春夏物からサーフボードショーツ(同: メンズ・ウェーブフェアラー・ボード・ショーツ)など、世界12カ国、2,000店で販売を開始。

東レ

パタゴニア

ナイロン6繊維製造時に発生する規格外品を溶融・チップ化



紡糸し、ナイロン6繊維を製造



衣料品を製造・販売



東レリサイクルナイロン6使用製品
パタゴニア
「メンズ・ワークエンダー・パンツ」

原油由来のバージンナイロン6繊維使用の衣料品に比べ、約1/6のエネルギーで製造可能、製造工程における二酸化炭素の排出量も約1/5と大幅に削減



パタゴニア Bill Werlin日本支社長と当社石井常務取締役テキスタイル事業部門長

PDP国内第5工場を兵庫県尼崎市に建設

松下電器産業株式会社殿と東レ株式会社は、PDPの新たな生産拠点として、両社の合併会社である松下プラズマディスプレイ株式会社(MPDP社)の第5工場を、兵庫県尼崎市(現工場隣接地)に建設し、世界最大の量産体制を更に拡大する。新工場の投資額は約2,800億円で月産能力は100万台(42型換算)で世界最大。2007年11月に着工し、2009年5月に第一期の稼働を開始予定。

PDP市場の将来見通し

世界的な放送のデジタル化を背景に、薄型テレビの需要は急速に拡大



2010年

薄型テレビのシェア拡大:世界のTV需要の65%が薄型テレビ
(2010年世界需要予測:2億台)

テレビの大画面化が進展:37インチ以上が30%以上



2010年のPDPの世界市場は、3,000万台に達すると予測

PDP新工場の概要

	第4工場(尼崎)	第5工場(尼崎)
稼働予定	2007年7月	2009年5月
月産能力(42インチ換算)	50万台	100万台
面取り数	42インチ8面(50インチ6面)	42インチ10面(50インチ8面)
投資額	約1,800億円	約2,800億円

PDP第5工場の投資生産性は世界最高
圧倒的生産規模とコスト力で、世界における薄型大画面市場をリードする

東レの逆浸透膜、地中海沿岸の海水淡水化プラントで相次いで受注

地中海沿岸で相次いで海水淡水化プラント向け逆浸透(RO)膜を受注。ハンマ(20万m³/日、アルジェリア)、パルマシム(9.3万m³/日、イスラエル)、マルタ(5.4万m³/日)の3ヶ所で、いずれも2007年稼働開始予定。

今回の受注施設



ハンマ海水淡水化プラント
(造水量20万m³/日)
アフリカ最大の海淡プラント

パルマシム海水淡水化プラント
(造水量9.3万m³/日)
東レ初のイスラエル向け受注

マルタ海水淡水化プラント
(造水量5.4万m³/日)
東レ初のマルタ向け受注

地中海沿岸地域はアラビア湾岸地域等と並び
2025年の水欠乏地域^(*1)

同地域の2015年までの淡水化施設容量増加
予想は179%と、アラビア湾岸地域の約2倍の
成長率^(*2)

特にアルジェリア、イスラエル、及び東レが
多くの実績を持つスペインが巨大RO法海水
淡水化プラントの建設を計画中

地中海沿岸地域その他、中東、中国などで積極的に受注拡大を図る

*1 = 水需要が供給を大きく上回る地域(水不足率40%超)、水不足率 = (1 - 水供給量 / 水必要量) × 100

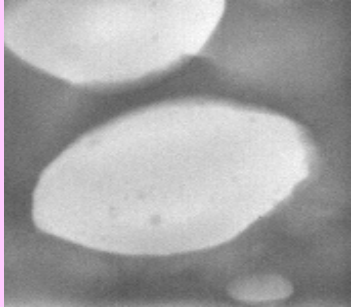
*2 = Global Water Intelligence誌予測

世界初、衝撃吸収プラスチックを開発

当社は、NEDO^{*})の委託事業である「精密高分子技術プロジェクト」において、山形大学・井上教授グループと共同で、通常は高機能プラスチックとしての特性を示し、急激に衝撃を加えたときにゴムのように変形して衝撃を吸収する世界初の衝撃吸収プラスチックの開発に成功。

^{*}) NEDO: 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

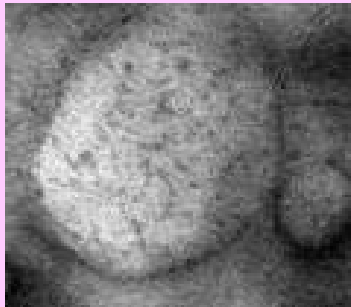
既存材料



1 μm

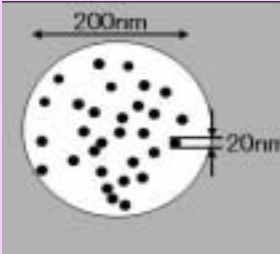
➔

開発材料



1 μm

モデル図



200nm
20nm

2種類以上のプラスチックをナノメートルオーダーでアロイ化(混合)する「ナノアロイ技術」により、世界初の衝撃吸収プラスチックの開発に成功

開発材料の大型高速落錘試験(200kg荷重、50cm高さ)



柔軟に変形し、衝撃を吸収

自動車材料をはじめ、エネルギー吸収性能を活かせる電機・電子分野やスポーツ用品等、新規用途の開発を推進

本資料中の2007年3月期の業績見通し及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。